

<三谷助成金事業第7回：奥越高原青少年の家での観察会報告： 令和5年2月19日実施>

三谷文化振興財団の助成金事業の第7回となる「雪の結晶観察会」を、本日奥越高原青少年自然の家で午前10時から11時15分の間で実施しました。児童・生徒を対象にした1泊2日の行事の中の1つのプログラムです。児童・生徒25人に加えて、当行事のボランティアスタッフ、それにふくい科学学園のスタッフを加え総勢約35人が取組みました。初めに、簡易ルーペ顕微鏡で雪のレプリカを観察しスマホに撮影した後、人工雪生成実験を5班に分かれて体験しました。雪と塩を混ぜて作った冷却材を雪結晶生成容器に入れ、その冷却材の上に、プラスチックシャーレに入った黒の亚克力板を乗せ、容器の蓋に取り付けた綿棒に、注射器の針を使って少しずつ水を送ります。約30分後、黒の亚克力表面にピカピカ光る雪の結晶が現れました。結晶の対称性はもう一つでしたが、みんな初めての体験で喜んでいました。



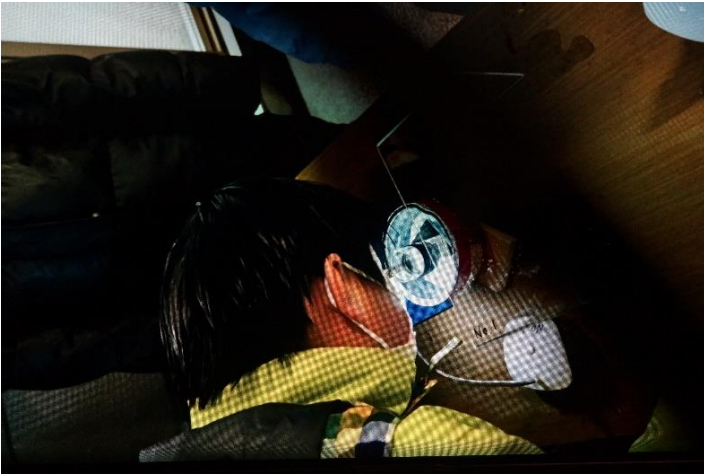
奥越高原青少年自然の家



5班に分かれて実験



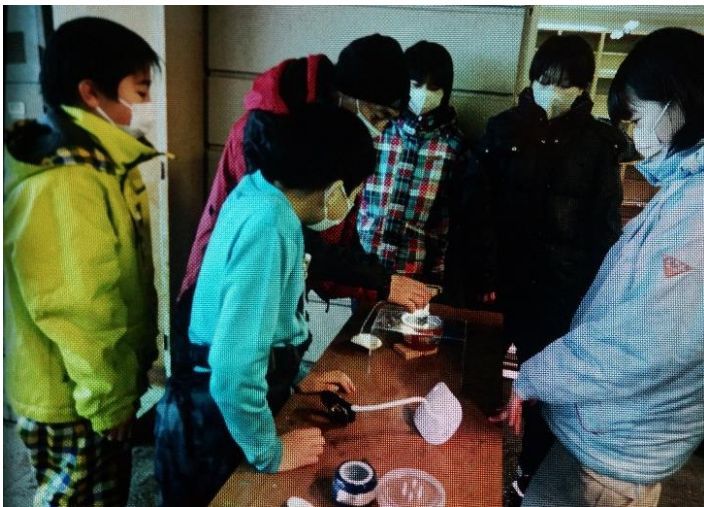
参加者に説明



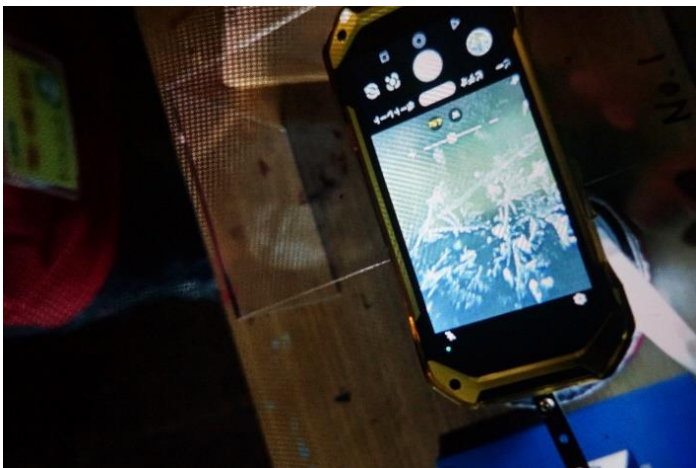
雪のレプリカの観察



人工雪生成実験：綿棒に水を送る



人工雪をスマホに撮影



スマホに撮影した人工雪